

授業実践の
まとめ

中学校美術科 第3学年

題材名 日本と西洋の美術文化 ～それぞれのよさや美しさを味わおう～（全2時間）

1 題材について

本題材は、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などに着目し、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解し、日本と西洋の美術文化のそれぞれのよさや美しさを味わう鑑賞の題材です。〔共通事項〕に示された造形的な視点を豊かにするための「知識」を活用して、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取ることができるようにします。さらに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができるようにします。

📖 [「題材デザイン FIRST STEP」](#)

2 題材の目標

- (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
- (2) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」（1））
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※ **知**＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、**鑑**＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、**鑑**＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表します。

題材の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb『[「題材デザイン FIRST STEP」](#)』、『[学習評価の進め方](#)』、『[学習評価 FIRST STEP](#)』を御参照ください。



4 指導と評価の計画

* 太字は、評価の場面となる学習活動を示しています。

時	○学習のねらい・学習活動	学習評価	
		指導に生かす評価	記録に残す評価
1	第一次 鑑賞（1時間） ○日本の美術作品と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とホッペマ「ミッデルハルニスの並木道」を比較鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ・作品の特徴から感じ取ったことなどをワークシートに記入する。 ・作品の特徴を基に、それぞれの作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・共有した表現の特質を基に、それぞれの作品のよさや美しさについて自分の考えをワークシートに記入する。 ・日本の美術作品の影響を受けたと言われている西洋の美術作品があることについて触れ、次時の学習への見通しをもつ。	発言の内容、ワークシート（知） 発言の内容、ワークシート（鑑） 活動の様子、ワークシート（態鑑）	
2	第二次 鑑賞（1時間） ○日本の美術作品と日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術文化について考え、見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とモネ「陽を浴びるポプラ並木」を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点をワークシートに記入する。 ・ワークシートに記入した内容を基に、西洋の画家が残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・日本の美術作品や西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれの作品のよさや美しさ、美術文化についてワークシートにまとめ、学習を振り返る。	発言の内容、ワークシート（知） 活動の様子、発言の内容、ワークシート（鑑、態鑑）	活動の様子、ワークシート（態鑑）
授業外	題材が終了後		ワークシート（知） ワークシート（鑑）

第2時の詳細については「[学習指導プラン](#)」を御参照ください。

指導と評価の計画の作成については、国立教育政策研究所「『[指導と評価の一体化](#)』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターWeb「[題材デザイン FIRST STEP](#)」、[「学習評価の進め方」](#)、[「学習評価 FIRST STEP」](#)を御参照ください。



5 本題材における指導と評価の実践

1：〔共通事項〕の内容について理解するために

美術科における「知識」は、造形的な視点を豊かにするために必要な知識について示しており、具体的には〔共通事項〕の内容を示しています。本題材では、造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫や美術文化について考えるなどして見方や感じ方を深めるための「知識」として、「形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する」ことができるように、第一次、第二次と段階的に学習活動を設定しました。

(1) 第一次の学習活動において

第一次では、まず、日本の美術作品である歌川広重『神田明神曙之景』と、西洋の美術作品であるホッバマ『ミッデルハルニスの並木道』を比較鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する学習活動を設定しました。

指導に当たっては、導入において、比較鑑賞する際の視点となる「色彩」「形」「構図」の造形的な視点を提示しました。それらの造形的な視点に着目して、生徒が鑑賞の活動に取り組むことができるようにしました（資料1）。

第一次 比較鑑賞する際の視点となる造形的な視点に着目する場面

教師：（『ミッデルハルニスの並木道』と『神田明神曙之景』を提示）
日本の美術作品と西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術作品の特徴とそこから感じたことを見付けましょう。まず、『ミッデルハルニスの並木道』の特徴はどのようなところですか。

生徒：空の青い色の彩度が高いです。

生徒：本物に似た形で、木にかけがあります。

生徒：遠くにいくほど、だんだん小さくなっています。

教師：さんは「色彩」、さんは「形」、さんは「構図」に着目して、作品の特徴を見付けていますね。ちなみに、さん、「色彩」の特徴から、どのような感じがしましたか。

生徒：晴れている感じがしました。

教師：なるほど。「色彩」の特徴から、晴れている様子を感じたのですね。では、このように、「色彩」「形」「構図」などの表し方に着目して、作品の特徴と、特徴からどのような感じがするかを踏まえて鑑賞しましょう。

資料1 生徒が造形的な視点に着目するためのやり取りの一部分

次に、比較鑑賞した日本の美術作品と西洋の美術作品の特徴や、特徴から感じたことを個人でワークシートに記入するようにしました。その際、「色彩」「形」「構図」などの表し方を基に、作品の特徴やそこから感じ取ったことなどをワークシートに記入することができていない生徒に対し、指導に生かす評価として適宜声掛けを行いました（資料2）。

教師：『ミッデルハルニスの並木道』と『神田明神曙之景』を比べて、近くに描かれているものと遠くに描かれているものの表し方に違いはありますか。

生徒：『ミッデルハルニスの並木道』は、道にある木が遠くなるにつれてだんだん小さくなっています。

教師：確かにだんだん小さくなっていますね。『神田明神曙之景』はどうですか。

生徒：（しばらく考えて…）『神田明神曙之景』は手前の木は大きく、遠くには風景が見えます。

教師：作品の特徴の違いを見付けましたね。ほかの特徴も見付けてみましょう。

資料2 ワークシートに記入することができていない生徒に対する教師の声掛け

その後、個人でワークシートに記入した作品の特徴を基に、グループで日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質について話し合い、学級全体で共有しました。その際、生徒の発言に対して問い返しをしたり、関連する意見をつなげたりしながら、生徒の発言の内容を造形的な視点を基に価値付けしていき、対象や事象を造形的な視点で捉えることについて生徒が理解できるようにしました。また、「色彩」「形」「構図」における日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質（資料3）をまとめ、「共通事項」の内容について理解を図ることができるようにしました。

第一次 学級全体での共有を基に、日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質をまとめた板書

日本の美術作品の
表現の特質

- ・鮮やかな色
- ・平面的な形
- ・大胆な構図

色彩

・色が多く、明暗がある色

形

・立体的、本物みたいな形

構図

・遠近法が使われていて、おさまっている感じがする構図

西洋の美術作品の
表現の特質

資料3 日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質

(2) 第二次の学習活動において

第二次では、まず導入で第一次の学習を振り返る学習活動を設定しました。その際、第一次の板書（資料3）を基に日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質を確認しました。それを踏まえて、第二次の「共通事項」の内容についての理解につなげるために、第一次に鑑賞した作品とは異なる日本の美術作品と西洋の美術作品を提示し、学級全体でそれぞれの表現の特質について確認しました（資料4）。

第二次 第一次の学習を学級全体で確認する場面



先ほどみなさんが答えてくれたように、日本の美術作品の表現の特質の一つとして「大胆な構図」であることを振り返りましたね。日本の美術作品の「大胆な構図」を、ほかの作品で確認してみましょう。（歌川広重『亀戸梅屋敷』を提示）

手前の木が大きくて、画面からはみ出しています。

奥の風景が小さいです。



『亀戸梅屋敷』も、『神田明神曙之景』と同じように、「大胆な構図」のようですね。では、先ほど振り返りをした、西洋の美術作品の「本物みたいな形」を、ほかの作品で確認してみましょう。（レオナルド・ダ・ヴィンチ『最後の晩餐』を提示）

2年生のときに見たことがあります。

明暗の差がついていて、立体感があるから、本物みたいな形です。

手前から奥に向かってだんだん小さくなっていっているから、本物みたいに见えます。

一点透視図法が使われていますね。



そう、2年生のときに学習しましたね。一点透視図法を使うことでどのような感じがしますか。

まるで、作品に描かれている部屋の中にいるような感じがします。



第一次で学習したそれぞれの美術作品の表現の特質は、ほかの作品でも見られるそうですね。どちらにもそれぞれのよさや美しさがありますね。

資料4 第一次の学習を振り返る学習活動の一部

次に、第一次で取り扱った歌川広重『神田明神曙之景』と、日本の美術作品に影響を受けた西洋の美術作品であるモネ『陽を浴びるポプラ並木』を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点をワークシートに記入する学習活動を設定しました。その際、第一次と同じ「色彩」「形」「構図」の造形的な視点で作品を鑑賞したり、個人の考えをもったあとにグループで話し合い、学級全体で意見の共有を行ったりしたことで、造形的な視点を働かせながら鑑賞の活動に取り組む生

徒の姿が多く見られました。表現の相違点や共通点をワークシートに記入することができていない生徒に対しては、指導に生かす評価として、構図や作風に着目することができるよう第一次の学習内容を想起する声掛けを適宜行いました（資料5）。



色彩、形の視点で共通点や相違点を見付けることはできていますね。構図について、第一次でまとめた表現の特質（前頁資料3）を、もう一度確認してみましょう。

日本の美術作品は「大胆な構図」で、西洋の美術作品は遠近法が使われていました。



それを踏まえて、第二次の西洋の美術作品を鑑賞してみましょうか。

（しばらく考えて…）第一次の作品のように、だんだん奥にいく感じがしません。木が画面からはみ出ている、奥の木が小さくて、日本の美術作品のような大胆な感じがします。



共通点だと思いますか。それとも、相違点だと思いますか。

日本の美術作品の「大胆な構図」と似ているので、共通点だと思います。



資料5 ワークシートに記入することができていない生徒に対する教師の声掛け

「知識」の評価に当たっては、その評価規準である「形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している」について、ワークシートの記述分析を基に「知識・技能」の記録に残す評価を位置付けました。評価規準を基に、ワークシートの設問1、2の記述から、授業外で「知識」の実現状況について評価しました。評価の総括では、ワークシートの設問1、2の記述を、授業内の生徒の学習状況を踏まえて見取り、第一次と第二次を合わせて総括しました（資料6）。評価規準に基づいた評価の例を以下に示します。

第一次

※波線は自分で書き加えた友達の考え

1. 二つの美術作品を比べて、色彩、形、構図などの表し方に着目して、それぞれの美術作品の特質とそこから感じたことを書きましょう。

作品名	「神田明神曙之景」	「ミッデルハルニスの並木道」
特徴	○風景の色彩が抽象的。 ○細かい部分は基本省いている。 ○作品名が描かれている。 <u>のっぺりしている。 暗い。</u> <u>グラデーションがある。 かげなし。</u> <u>平面的。 使われている色が少ない。</u> <u>手前が大きい。</u> <u>木が全部描かれていない。</u>	○色のグラデーションが多く使われている。 ○かげが描かれている。 <u>明るい（空の色）。</u> <u>たくさん色がある。</u> <u>一点透視図法が使われている。</u> <u>木の全体が描かれている。</u>
特徴から感じたこと	○イラストっぽい。 <u>しぶい感じ。 朝みたい。</u>	○リアルな感じに近い。

第二次

2. 二つの美術作品を比べて、相違点や共通点について書きましょう。

作品名	「神田明神曙之景」	「陽を浴びるボブラ並木」
相違点	・「陽を浴びるボブラ並木」と比べて、 ○色が暗い。 ○雲が描かれていない。	・「神田明神曙之景」と比べて、 ○明るい色が多い。 ○雲が描かれている。 <u>明るく、何色も使っている。</u> <u>ものを細かく描いている。</u> <u>かげがあるようでない。 平面的。</u>
共通点	○一番目立つ木の全体が見切れている。 ○具体的ではなく抽象的。 ○使われている色が少ない。 <u>大胆な構図。</u> <u>木を前面に描いている。</u> <u>遠近法を使っていない。</u>	

設問1では、「形」や「色彩」の視点で捉えることができていますが、「構図」の視点では捉えることができていません。

設問2では、自分で書き加えた友達の考えを参考に記述しています。また、形や色彩だけでなく構図についても着目しながら作品の共通点や相違点についてワークシートに記述しています。さらに、作品から感じたことの記述から、形や色彩、構図の特徴から作品全体のイメージを捉えています。

以上から、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解していることが読み取れることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

資料6 生徒Aのワークシートの記述と教師による記述分析

2：見方や感じ方を深めるために

諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考え、美意識を高め、見方や感じ方を深めるために、第一次の終末、第二次の展開、題材の終末と段階的に学習活動を設定しました。ここでは、第二次の展開と題材の終末の学習活動における具体を示します。

(1) 第二次の展開の学習活動において

第二次の展開では、造形的な視点を働かせながら、日本の美術作品である歌川広重『神田明神曙之景』と、日本の影響を受けた西洋の美術作品であるモネ『陽を浴びるポプラ並木』を比較鑑賞し、相違点や共通点をワークシートに記入する学習活動を設定しました（資料7）。その際、西洋の美術作品のよさや美しさをそのまま残したところを相違点、日本の美術作品のよさや美しさを取り入れたところを共通点として整理するようにしました。

その後、ワークシートに記入した内容を基に、西洋の画家が残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する学習活動を設定しました。グループで話し合った内容を記入したホワイトボードを前方の黒板に貼って学級全体で共有することで、全てのグループの意見を可視化することができるようにしました（資料8）。

グループや学級全体での共有に当たっては、作品の見方や感じ方の深まりを生徒が自覚することができるように、ワークシートに記入する際はペンの色※を変えて書き加えるよう促しました。また、生徒の様々な見方や感じ方を共有できるようにするために、生徒の考え（資料9の下線部）に対して受容的な声掛けをしたり、問い返しをしたりしながら、意見の分類や集約を行いました（資料9）。

【生徒の様々な見方や感じ方を共有できるようにするための声掛けや問い返し】

私は、『陽を浴びるポプラ並木』にはかげがあると考えます。なぜなら～。

先ほど、『陽を浴びるポプラ並木』に、かげがあるという意見があったけれど、私はかげがないと考えます。なぜなら～。

受容的な声掛け

なるほど、そのような見方もありますね。 どちらの見方もできますね。

私はかげがあるのかないのかわからなかったけれど、どちらの見方も間違いではないですね。

『陽を浴びるポプラ並木』は、『神田明神曙之景』と同じように形が大きなところが共通点だと思いました。

問い返し

「形が大きな」という、その考えについて詳しく教えてもらえますか。

形が大きなというのは～。

形についての共通点は気づきませんでした。ワークシートに書き加えます。

資料9 共有に当たっての声掛けや問い返し

そうすることで、友達の見方や、友達の見方を参考にして新たに思い付いた自分の考えをワークシートに書き加え、見方や感じ方を広げたり深めたりする生徒の姿が見られました（資料10）。

※青色のペン は自分で書き加えた友達の考え

赤色のペン は友達の見方を参考にして新たに思い付いた自分の考え

2. 二つの美術作品を比べて、相違点や共通点について書きましょう。（知 思）

作品名	「神田明神曙之景」	「陽を浴びるポプラ並木」
相違点	・「陽を浴びるポプラ並木」と比べて、 ○色の明度が低い。○雲がない。 ○葉や草が一色で描かれている。	・「神田明神曙之景」と比べて、 ○色の明度が高い。 ○雲が描かれていて、水にも反射している。 ○葉や草が色を変えて描かれている。 <u>色の数が多い。</u>
共通点	○平面的。 ○大胆な構図。 ○木が収まりきっていない。	<u>形が大きな。</u> <u>かげがない。</u>
西洋の美術作品のよさや美しさを残したところは、 ○ <u>全体的に画面が明るく、何色も使っている。</u> ○ <u>ものを細かく描いている。かげがあるようでない。</u> 日本の美術作品のよさや美しさから影響を受けたところは、 ○ <u>大胆な構図</u> ○ <u>木を全面に描いて遠近法を使っていない。</u>		

資料10 生徒のワークシートの一部

学級全体で共有したあとに、日本の美術作品の影響を受ける前と受けたあとのモネの作品や、ほかのジャポニズムの作品を学級全体で鑑賞する学習活動を設定しました。指導に当たっては、作品を提示したときの生徒の発言に応じ、問い返しを行ったり、視点や情報を提示したりすることで、生徒の思考を揺さぶり、モネが日本の美術作品から受けた影響について考えることができるようにしました（資料11）。

第二次 日本の美術作品に影響を受ける前と受けたあとのモネの作品を鑑賞する



日本の美術作品に影響を受けたモネの作品を鑑賞してきましたね。ここで、モネが18歳のときに描いた作品を紹介します。（『ルエルの眺め』を提示）

すごくリアル！写真みたい！日本の美術作品に影響を受けたモネの作品と違って、明暗がはっきりしていて、「ミッドルハルニスの並木道」の描き方に似ています。



同じ作者なのに、どうしてこのように違うのでしょうか。作品が変わるような出来事があったのでしょうか。



教科書には、ジャポニズムが関係しているとあります。



さん、ジャポニズムのことを皆さんに教えてもらえますか。

ジャポニズムは～（教科書の説明を読む）



（ジャポニズムの資料を提示）これは19世紀にフランスのパリで行われた万国博覧会の様子です。さんが教えてくれたように、これをきっかけにヨーロッパで日本ブームが起こりました。

画家たちは今まで見てきた美術作品とあまりに違って、衝撃だったでしょうね。



ちなみに、モネの自宅はこのような感じだったそうです。（『睡蓮』と、浮世絵が飾られているモネの自宅の資料を提示）

壁一面浮世絵だらけ！本当に浮世絵が好きだったのですね。



なるほど。浮世絵に出てくるものを自分の作品にも取り入れたり、浮世絵の世界を再現したりしたいと思うほど、モネは影響を受けていたのですね。



では、もう一度、『陽を浴びるポプラ並木』と『ルエルの眺め』を比べてみましょう。（『陽を浴びるポプラ並木』と『ルエルの眺め』を提示）どのような感じがしますか。

『ルエルの眺め』は明暗がはっきりしていて筆あとがなめらかで写真みたいだけど、『陽を浴びるポプラ並木』は点々とした筆あとが目立って雑な感じがします。



雑だけど、木を描いているのが分かります。よく見たら「明暗がある」から、西洋の美術作品の表現の特質は残っていると思います。



木が画面からはみ出しているところが、日本の美術作品の表現の特質である「大胆な構図」の影響を受けている感じがします。



モネは写真のようにリアルに描くこともできるけど、画面からはみ出ている「大胆な構図」など、日本の美術作品の表現もよいと思って自分の作品に取り入れたのだと思います。



資料11 日本の美術作品に影響を受ける前と受けたあとのモネの作品を鑑賞する学習活動の一部

(2) 題材の終末での学習活動において

題材の終末に、これまでの学習を基に日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれのよさや美しさ、美術文化についてワークシートに自分の考えをまとめ、学習を振り返る活動を設定しました。

その際、生徒の活動の様子やワークシートの記述から、学習状況を把握するようにしました。自分の考えをもつことが難しい生徒に対しては、指導に生かす評価として、ヒントカード等で文型を示し、ワークシートに記入することができるようになりました（資料12）。

ヒント

3. これまでの学習を基に、日本と西洋の美術作品のそれぞれのよさや美しさ、美術文化について、あなたが考えたことを書きましょう。

日本の美術作品のよさや美しさは、～～だと思った。
西洋の美術作品のよさや美しさは、～～だと思った。
学習を通して、私は～～だと考えた。

資料12 ヒントカード

「思考・判断・表現」の評価に当たっては、その評価規準である「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている」について、活動の様子やワークシートの記述分析を基に、「思考・判断・表現」の記録に残す評価を位置付けました。評価規準を基に、授業終了後にワークシートの設問3の記述を中心に、設問1や2の記述も補助的に用いながら評価を行いました（資料13）。

※補助的に用いる

※下線は判断の根拠とした記述
※生徒Bの場合、設問2の記述を補助的に用いる

2. 西洋の美術作品のよさや美しさを残したところは、
○色数が多く、細かいところまで描く
日本の美術作品のよさや美しさから影響を受けたところは、
○大胆な構図で、大まかな形

3. これまでの学習を基に、日本と西洋の美術作品のそれぞれのよさや美しさ、美術文化について、考えたことを書きましょう。
日本の作品のよさは平面的で絵らしいところで、西洋の作品のよさはリアルで細かいところだと思いました。日本の作品がほかの国の作品に影響を与えたなんてすごいいいと思いました。

設問3の記述では、日本や西洋の美術作品のよさや美しさについて、第一次における表現の特質の理解にとどまっていますが、設問2の記述を補助的に用いることで、日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品の表現の特質を踏まえて、それぞれの美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ることができていたと見取りました。併せて、設問3の「日本の作品がほかの国の作品に影響を与えたなんてすごい」という記述から、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考え、見方や感じ方を深めていると読み取れることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

資料13 生徒Bのワークシートの記述と教師による記述分析

6 授業実践を終えて

授業実践を終えての成果と課題を以下に示します。

成果は、資質・能力の育成を図るために、各観点で設定した評価規準を踏まえて学習活動を設定したことです。目標の達成に向けて第一次、第二次と段階的に学習活動を設定することにより、教師が生徒の学習状況を的確に把握しながら授業を行うことができました。また、ねらいの達成に向けて同じモチーフで日本の美術作品、西洋の美術作品、日本の影響を受けた西洋の美術作品のそれぞれの表現の特質が比較しやすい作品を選定しました。そうすることで、生徒は、造形的な視点を基に比較鑑賞することができ、美術科における「知識」である〔共通事項〕の内容について理解することができました。また、その「知識」を活用して見方や感じ方を深めることができたと考えます。

課題は、生徒の実態に応じた手立ての設定です。第二次の終末の学習活動において、生徒が段階的に考えをまとめることができるように、第一次の学習活動及びワークシートの設問を再検討し、教師の指導改善につなげました。

本実践を通して、ねらいとする資質・能力の育成に向けて、題材の指導と評価の計画に基づいて授業を行っていくこと、生徒の学習状況を的確に把握して指導に生かしていくことが大切であると感じました。指導と評価の一体化に向けて、今後も引き続き授業改善に取り組んでいきたいと思います。